



野々口眞由美 議員
(TSUNAGU)

問 市民の大切な税金の
使い方について

行政財産は有効活用し使用料は市の歳入とすべきではないか。また、転貸に当たる行為も是正を求める。補助金は要綱に基づき適正に交付し、歳出を削減すべきではないか。コロナ危機でさらに財政状況は厳しい。税金の使い方について、抜本からの見直しを求める。

答 行財政改革の中で
見直しを行っていく

行政財産使用料のうち、市の外郭団体等が管理する自動販売機については取扱いを見直していく。また、補助金や負担金、組織などのあり方については、行財政改革の中で、過去の取組を参考としつつ、見直しを行っていく。

問 子どもに安心感と信頼
できる大人の姿を

教育長、3期目にかける思いやコロナ禍で増加する若者の自死など子ども達の命についての考えを伺う。さらに、自死の大きな要因になっている“いじめ”について、真剣な取組を望む。友達の自死により残された子ども達への心のケアなど事後対応について伺う。

答 子どもたちの命は、
すべてにおいて優先

3期目の思いとして、大人が「子どもたちのよさを見つけ、ほめて伸ばす」ことを挙げる。子どもたちの命は、すべてにおいて優先されるべきである。事後対応では、関係諸機関と連携を図り、臨床心理士やスクールカウンセラー等の配置により柔軟に対応する。



菱沼あゆ美 議員
(公明党)

問 親亡き後の支援は

障がい者の保護者は、自身に何かあったときのその後を心配し、大きな不安を抱えている。市の取組の現状は。また、生活や支援などの具体的な備えについて、子の成長に合わせたライフプランを共に考え作成支援するような研修などを、行ってはどうか。

答 地域生活支援拠点の
機能を活用していく

居住支援のための5つの機能を持つ埼葛北地区地域生活支援拠点（オーリーバ）を中心として、地域全体でサービスのあり方を考え、取組を深めていく。また、相談支援専門員が個別に作成するサービス等利用計画等を活用し、利用者の目標、課題等を把握していく。

問 生理の貧困問題の対策を

コロナ禍で社会的孤立・孤独が深刻化し、生理の貧困も問題になっている。市の防災備蓄の生理用品を必要とする方へ提供出来ないか。また、子ども達の影響も大きい。学校のトイレに、常時置くことで安心して学校生活が送れるようになると思うが、いかがか。

答 備蓄品の活用も含め
対応を検討する

生理用品については、定期的購入することで、使用期限の迫った備蓄品を無償提供用に活用していく。必要となる数量や購入する費用が課題となるが、児童生徒が必要となった時に困ることが無いよう、関係部署や各学校とも連携・調整し対応を検討する。



新宿区の取組